

令和元年度【社会福祉法人泉学園】事業報告

年明け早々、私達の生活を大きく変えることとなった新型コロナウイルスの感染、5月に至って少しずつ治まりを見せつつあるが、今後も警戒を怠らず、完全に終息することを待ちたいと思う。入所施設やグループホームという暮らしを丸ごと支援する事業の利用者を始め、重症心身の方やご高齢の方、持病をお持ちの利用者等、感染リスクの高いとされる方々の支援に携わっている私達だけに、より慎重に現状を受け止め対応してきた。幸いに陽性者が身近に出ることはなく、このまま終息に向かうことを願うばかりである。

今年度は新規事業もなく、大きな変動はない一年であった。従来からの様々な事業に職員が一体となって取り組んできたことで、皆さんの笑顔があちこちで見られたことを喜びたいと思う。ご本人、ご家族の高齢化は徐々に進んできている。年齢や身体状況により一層配慮した支援が求められ、また、介助に限界が見えつつあるご家庭もあり、改めて私たちの役割を見つめ直す一年でもあった。30年の歩みの中で関わりが生まれた方、誰もが生涯を安心と豊かさの中で生きていって欲しい、そうした願いが改めて思われる。皆さんのお力添えも頂きながら願いに基づいた支援を今後も一步一步進めていきたいと思う。

赤磐市の障害者計画に基づく当法人の施設整備実施計画は、今年度新たな一步を踏み出した。赤磐市も大きな期待を寄せていただいている事業であり、国庫補助金の内定を待つ今である。国の予算が付き、今年度事業として実施できる見通しが立てば具体的計画をお示ししたい。以下、今年度の計画の柱に沿って振り返り報告とする。なお、具体的な取り組みについての報告は前回現況報告以降のものを主としている。

I. 法人運営の柱

◇障害福祉サービスの一層の充実にむけて

今年度も各事業所共、年間事業方針、中間での振り返りを始め、月ごとの会議等で支援の見直しや事業の振り返りを行い、当事者の自己実現に向けた模索を続けた一年であった。法人全体としても、月々の事業所責任者会議や研修を通して情報の交換や取り組みの検討、支援者としてのスキルアップに努めてきた。

上記の重症の方々を対象とした施設整備計画も具体化を図り赤磐市と連携して進めてきた。この2月には国庫補助協議書を提出、決定を待っている所である。また、岡山南障がい者相談支援センターにおいては地域生活支援拠点事業の受託など南区において相談支援機能の中心的役割を果たしてきたが、新たに岡山市虐待防止対策支援事業受託申請を行い、新年度からは岡山市からの委託をいただき、本事業をスタートすることとなった。

<具体的取り組み.>

- ・事業所設備備品等の整備
イオン社会福祉基金より泉学園共同生活援助事業所へ日産キャラバンの贈呈を受ける。
- ・赤磐市第五期障害者計画に基づく泉学園障害福祉事業施設整備
岡山県へ国庫補助金協議書提出、内示を待っている段階。新事業で事務所として利用を予定しているプレハブの建物を除き、3000㎡の用地は赤磐市の方で造成いただいた。
- ・岡山市虐待防止対策支援事業受託申請（委託を受ける。新年度からスタート）
岡山市の障害者虐待防止対策取り組みの一環で、虐待防止センターとの間に立ち、平日の夜間や土日等の対応業務。

◇将来の泉学園を担う人材の確保について

次年度に向けた人材の確保にこの一年は悩ましい現状が続いた。採用試験を度々実施、人材紹介サイトなども利用する中で、新年度の支援体制にはなんとか間に合うことができたが、十分な体制とはまだ言えない状況である。今期は年度末になって退職者が複数名あり、急遽な対応を迫られたことも大きく影響した。

将来を担う人材の確保は将来の安心と希望ある法人運営にとっては大きな課題である。人口減少社会にあって、福祉人材の確保はままならぬ時代が続くと思われる。ボランティアや実習生、職場体験学習など様々な出会いがあるが、そうしたあらゆる機会を大切に、優れた人材確保に向け、繋がりを活かす努力が求められている。

< 具体的取り組み >

- ・現況報告にてふれたように、学校訪問、職場見学会の実施、社会福祉協議会主催職場説明会参加、リクナビ、マイナビ等求人サイトやホームページの活用、人材紹介会社からの紹介等、様々な機会を利用した。また、求職者の中に、人材紹介会社に就職先探しを依頼するという方が増えつつある感を受けた。従来とは違った傾向を感じる今の求職状況である。
- ・来年度に向けた採用試験実施
応募がある都度、採用試験を実施した関係で後期だけで9回にわたって行った。結果、新年度に向けての採用者数は新卒者5人、既卒者8人（内3人は5月採用）となっている。
なお、今年度を振り返る中で、法人内の人材育成、職場定着支援の大切さを改めて痛感した。

◇ 職員のスキルアップに向けての取り組み

今年度も法人内研修計画を定め、対象者を経験年数、役職者等に区切り実施した。残念ながら新型コロナウイルス感染防止対策の中で予定されていた役職者対象の研修は中止となった。新採用職員研修は3月末、数日間の現任研修含め実施。従来、一日かけて実施してきた法人の沿革等全員集めての研修は半日に短縮し行った。

< 具体的な取り組み >

- ・今年度法人研修
中堅職員研修（10/30、11/6の2回）・・・アンケートを基に後輩へのアドバイス他。
新任職員フォローアップ研修（10/16）・・・先輩からの講演他。
上級職員研修（12/4）・・・8年目以上職員対象、当法人の強み弱み、時代の中で変わらなければならないこと他。
役職者研修・・・新型コロナウイルスの関係で中止。
事業所間交流研修（8月～12月）・・・他事業所での実務研修、12名参加。
- ・喀痰吸引、強度行動障害支援者養成研修、サービス管理責任者研修他、資格取得やスキルアップに向けた研修参加（各事業所で判断、参加）

◇ その他の取り組み

< 各種委員会活動の実施 >

今年度も各事業所を横断する形で5つの委員会と事務局付けリクルート活動推進委員会の活動を実施してきた。年度後半、まとめの時期になってコロナ関連対策にて集まりがままならない状況が生まれ、活動の括りが中々できないで終わった委員会もあった。

研修委員会～スキルアップの項目にて上記記載済み。

尊厳と権利推進委員会～障害者虐待防止マニュアル作りを目指してまとめに向けた項目を整理、各事業所で分担して進めようとしたが実現せず、道半ばに終わっている。

地域交流委員会～共生おかやま南ふれあいフェスタ実施以降進展はなかった。

福利厚生委員会～10月ふれあいまつりにて法人バザー、同じく10月トマト銀行主催6時間マラソンに有志で参加、2月ゲーム大会開催。いずれも20～30人規模での開催で楽しく過ごすことができ親睦に繋がった。

泉だより編集委員会～9月1日…第38号、3月1日…第39号、それぞれ各1,200部の発行。

リクルート活動推進委員会～人材確保に向けての取り組み、上記記載済み。

< 待遇の改善に向けて >

福祉・介護人材処遇改善加算Ⅰを申請し、定期昇給、月額給与に一定額の上乗せ、福祉資格や役職者等への手当、泉の園夜勤者への夜勤手当の上乗せ等、といった改善を従来同様今年度も実施した。また、本年1月からは、前年10月に制度化されたその他特定処遇改善加算制度を申請し、対象職種を3グループに分け、a)グループの経験と資格ある福祉職にあっては常勤者で月額13,600円の手当を支給してきた。相談支援事業所は対象外となっており、独自財源で手立てを図った。新年度からは、通所事業所の開所日を8日増やし、ニーズへの対応と増収を図る中で、スタッフ確保に向け公休日を8日減らすこととした。そのことに対する手当の意味を含め12,000円/月のベースアップを図った。久しぶりの給与表の改定を行っている。

II. 法人30周年に向け、委員会の組織化

法人設立30周年を新年度に控え、準備を急ぎたいとした事業計画であったが、新型コロナウイルス感染騒ぎがあり、事業実施を先延ばしするか、規模縮小にて実施を図るか検討しているところである。共に歩んできていただいた利用者ご家族、役職員、関係者、地域の方々と共に何ら

かの形でお祝いしたいと考えている。

Ⅲ. 法人役員会等の実施

6月には役員改選を実施した。再び京林さんに理事をお願いしたが、初年度から関わっていた方をお願いできたことを心から喜びたい。現況報告以来の会議は以下のとおりである。

11月14日 理事会（令和元年度現況報告、一次補正予算、諸規程の変更等）

11月22日 評議員会（令和元年度現況報告、一次補正予算）

3月17日 理事会（令和元年度二次補正予算、令和2年度事業計画、令和2年度当初予算、就業規則の変更、給与規程他諸規定の変更、管理者（施設長級）の変更他）

3月25日 評議員会（令和元年度二次補正予算、令和2年度事業計画、令和2年度当初予算）

Ⅳ. その他

<岡山市行政監査並びに実地指導等>

- ・6月18日 デイセンターなずな、
- ・8月26日 瀬戸障がい者相談支援事業所実地指導、共に現況報告にて報告済み
- ・3月11日 社会福祉法人泉学園法人監査・・・指摘事項はなし

令和元年度【泉の園】事業報告

はじめに

令和元年度は前年度同様の大きな自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大等予期せぬ出来事が次々と起こった1年であった。泉の園でも8月には台風10号の影響を受けて3時間以上停電し、備蓄していたランタンや備蓄食等を使用した。10月には台風19号の接近に伴いやむを得ず泉まつりの開催を中止した。2月下旬からはそれまで行っていたインフルエンザの予防対策に加え、新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んでいる。感染者やクラスターを発生させないことが最優先目標であるが、同時に感染者が発生した場合の施設内での療養を想定した準備や人員体制の確保等、事業を継続していくために課題を整理して対策の検討を進めていきたい。

利用者の状況は、嚥下機能の衰えにより食後の喀痰吸引の開始や食事形態の変更を行った方がおられる。60歳を過ぎてから衰えが顕著になっており、老化の早さを考慮して今のうちから歌を歌う機会を増やす等嚥下機能低下防止の取り組みに全体で力を入れていきたいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症への対応から現在は実施が難しい状況にある。また楽しみにされている行事や外出等の中止、日々の活動内容の変更等利用者の心身にかなり負担がかかっていると思われる。こうした状況は今後もしばらく続くと思われるので、感染防止対策を行いながらも一人ひとりが笑顔で参加できる活動を工夫していく必要がある。職員についても感染防止対策の徹底を図るとともに、マスク着用による熱中症の予防対策等を検討し、少しでも負担を減らしていくことができるよう考えていきたい。

1 利用者状況(3/31現在)

障害支援区分	6-39名	5-18名	4-3名	平均障害支援区分	5.6
在籍数	生活介護-60名	施設入所支援-46名			
平均利用率	生活介護-91.8%	施設入所支援-96.8%	短期入所-44.4%	日中一時-25%	
平均年齢	生活介護-43.7歳(通所者-30.4歳)	施設入所支援-47.8歳			

2 グループ活動領域

- シリウス① (13名) (ウォーキング、ストレッチ、ドライブ、ミュージックタイム、スノーズレン等)
・プレミアムフライデー(コンビニエンスストア利用)を8月に行った。
- シリウス② (11名) (散策、ストレッチ、ドライブ、空き缶回収、ミュージックタイム、スノーズレン等)
・プレミアムフライデー(コンビニエンスストア利用)を7月、1月に行った。
- ※シリウス①、②共通
・ストレッチは個々に応じたメニューを取り入れて拘縮予防や機能低下防止に努めた。
・ビー玉落としや型はめパズル、プレートビーズ、ペグ刺し、ボール投げ等各自の好みや興味に応じて行う個別活動にも取り組んだ。
- アリエス (14名) (個別活動…刺子、プレートビーズ、パズル、ビーズ通し等、箱折ウォーキング等)
・個別活動では複数の題材の中から各自がしたい題材を選び取り組んでもらった。
・レクリエーション(ハンカチ落とし、紙芝居等)や運動、創作、散策、スノーズレン等の活動も取り入れていった。
・プレミアムフライデー(コンビニエンスストア利用)を6月、11月に行った。
- コンパス (12名) (空き缶回収・プレス、資源回収・納品、ミュージックタイム、ウォーキング等)
・地域に出掛けて行き空き缶回収等の活動を行った。資源回収にも力を入れて取り組んだ。
・雨天時や気温の状況に応じて室内活動(個別活動(プレートビーズ、ペグ刺し、知育教材、サンプルブック仕分け等)、紙芝居、創作活動等)を行った。
・プレミアムフライデー(コンビニエンスストア利用)を9月に行った。

- オリオン（10名）（花壇の整備、野菜作り、サンプルブック仕分け、ウォーキング等）
- ・野菜作り(サツマイモ、ジャガイモ、大根、トマト、胡瓜、茄子)は野菜の成長を観察し、収穫、販売まで行った。
 - ・雨天時や気温の状況に応じて室内活動(サンプルブック仕分け、紙芝居、スノーズレン等)を行った。
 - ・コンパスグループと協力して空き缶回収を分担したり、空き缶プレスを活動に取り入れた。
 - ・プレミアムフライデー(コンビニエンスストア利用)を5月、10月に行った。

働き方改革による年5日の年次有給休暇の確実な取得の義務付けが始まり、これまでの活動内容では職員の休暇の確保が難しくなってきたため、今年度より金曜日の午前中をグループ活動から入所・通所毎の活動または全体活動に変更した。利用者の状況も変化してきており、大きな混乱はなかった。上記により金曜日の活動内容を変更しているが、月1回グループ毎に順番で金曜日に外出する「プレミアムフライデー」は継続して実施した(但し新型コロナウイルス感染防止のため2月以降は中止している)。外出先での活動は自動販売機利用からコンビニエンスストア利用に変更し、自分たちの好きなお菓子等を選び購入していた。今まで以上に楽しみながら公共の場でのマナー等を学ぶ機会となった。

講師の方に来ていただいて実施しているミュージックタイム(音楽療法)は楽しみにされている方が多く、口腔体操等を取り入れ嚥下機能低下防止にも繋がっているが、新型コロナウイルス感染防止のため3月以降は中止している。

3 自治会領域

- 代議員 利用者の代表として6名のメンバーが様々な役割に意欲的に取り組まれていた。
- 代議員会 金曜日(9:30~10:30)ー寮内パトロール、行事の計画や立案、掲示物作成等を行った。
- ホームルーム 月曜日午前ー代議員が皆の意見を聞いたり、行事についてのお知らせ、代議員会の報告等を行った。
- 行事 誕生会(毎月第4水曜日)を企画し実施した。その他おやつ作り(6月)、花火大会(7月)、団子作り(9月)、焼き芋大会(11月)、お汁粉作り(1月)、自治会総会(3月)等の行事を行った。但し3月以降は全体で行う活動から棟毎に分散して行う活動に変更して実施し、誕生会以外の飲食を伴う活動は中止した。
- 当番活動 ペットボトルキャップの回収・納品を行った。
- アンケート 利用者アンケート～暮らしの満足度～を3月に行った。

4 余暇・文化領域

- 活動予定作成 月計画、週計画、土・日・祝祭日及び長期特別活動時の余暇計画を作成した。
- 買い物 日曜日ー徒歩外出(園周辺)、自動車外出(天満屋ハピータウン、イトゴフク、エディオン岡南店、フタバ図書等)を行った(但し3月以降は新型コロナウイルス感染防止のため中止している)。
- クラブ 金曜日午後ーお茶、絵画、運動等の活動を行った。但し3月以降は全体で行う活動から棟毎に分散して行う活動に変更して実施し、飲食を伴う活動は中止した。
- 行事 花見・母の日の手紙(4月)、端午の節句(5月)、父の日の手紙(6月)、七夕(7月)、納涼行事・DVD上映会(8月)、ハロウィンパーティー(11月)、浦安小学校作品展・餅つき大会・年賀状作り(12月)、書き初め・とんど焼き・DVD上映会(1月)、節分(2月)
※その他カレンダー作り、壁面飾り作成等を行った。
- ビューティータイム 女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月1回実施した。

5 生活領域

基本的な生活習慣の支援—障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。

生活班講座—利用者を対象に歯磨き(5月)、夏バテ対策・熱中症予防(7月)、感染症予防(11月)の学習会を行った。

リラクゼーションタイム—ADLの向上や楽しみながら体を動かすことを目的とし、タオルを使用して背中や腕を伸ばすストレッチやヨガのポーズを取り入れたストレッチ、ボールを使用したマッサージ等を実施した。

6 保健・看護領域

通院件数—978件(昨年度972件)、訪問歯科件数—268件(昨年度281件)

入院日数—利用者6名102日(昨年度利用者4名86日)

健康診断—年2回(7月、2月)実施、がん検診受診(38名)、検便—年2回実施

インフルエンザワクチン接種—11月(55名)

インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症対策として、検温、施設内消毒、換気、マスクの着用、手洗い、手指消毒の励行等を行った。また集団での活動は極力控えるようにした。マスク、使い捨て手袋、消毒用アルコール等をできるだけ用意するようにしているが、入手が困難な状況が続いている。

7 給食委員会

年4回、管理栄養士を中心に関連職種職員や給食委託業者の栄養士等と給食内容等の検討を行った。

献立は管理栄養士と給食委託業者の栄養士等が毎月原案を元に話し合いを行って作成した。

食事形態

刻み無し—38名

刻み有り—22名(一口大(主菜、芋類のみ2cm)—5名、一口大(2cm)—5名、荒刻み(1cm)—5名、

極刻み(5mm)—4名、極刻み(1mm)—1名、極刻み(1mmとろみ付き)—1名、ミキサー(とろみ付き)—1名、その他にも利用者の状況(肥満、アレルギー、消化不良、摂食不良)に応じて主食の形態変更(全粥、マンナンライス、麺の刻み)やご飯の計量、アレルギー食材の除去、代替食等の個別対応を行った(個別対応が必要な方が年々増えている)。

リクエストメニューは6月、11月、2月に実施した。

インフルエンザ対策として11月～3月の平日は牛乳をR-1ヨーグルトに変更して提供した。

栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを継続し、個々に栄養ケア計画を作成して栄養に関するケアとマネジメントを行った(入所利用者対象)。—高リスク3名、中リスク19名、低リスク24名。

8 防災委員会

避難訓練—5月、6月、8月、9月、11月に実施した(夜間・夜間想定、風水害、地震・津波の訓練含む)。

岡山南消防署との合同訓練を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止。

救急法学習会—岡山南消防署の方に講師として来ていただき「心肺蘇生法」の学習会を実施した(11月1日、職員20名参加)。

9 人権擁護委員会

職員に虐待防止チェックリスト等を使ったアンケートを年3回実施し、人権擁護(虐待防止)に対する意識の向上を図った。

実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで職員の気づきに繋げていった。

人権擁護(虐待防止)に関し、全職種の職員が参加する学習会を6月、11月(新人職員対象)に実施した。

10 地域交流委員会

地域交流行事の企画・実施－共生おかやま南ふれあいフェスタ、お飾りづくり(10月に予定していた泉まつりは台風接近に伴い開催を中止した)。

地域行事への参加－浦安ふれあい夏祭り、浦安荘まつり(ボランティアとして参加)、浦安西町秋祭り
ボランティア受け入れ－行事のボランティアは泉まつりが中止となり受け入れなし(昨年度40名)、その他ギターコンサート、ハンドベルアンサンブル演奏会、余暇支援等のボランティア受け入れを行った。但し2月以降は新型コロナウイルス感染防止のため受け入れを中止している。

ミュージックペルー講師の方に来ていただき「チームMB」のメンバーが月1回練習を重ねている。10月にはゆうあい文化祭で演奏を披露し、メンバーにとって自信に繋がる良い経験となった。しかし新型コロナウイルス感染防止のため2月下旬より練習を中止している。

町内会活動－浦安本町町内会賛助会員として廃品回収や学区の一斉清掃活動への協力を行った。また懇親忘年会に参加させていただいた。

11 介護技術スキルアップ委員会

介護施設を見学し、誤嚥についての研修を受けた。その内容を基に学習会を実施した。

KGU(介護技術アップ)通信を発行し、快適な生活環境作りやボディメカニクスの基本等について啓発していった。

12 苦情解決委員会

苦情解決及びリスクマネジメント等に関する取り組みを行った。

ヒヤリハット 投薬関係－10件(昨年度6件)、離園及び所在確認ミス－10件(昨年度10件)、
転倒－9件(昨年度8件)、利用者間のトラブル及び粗暴行為－10件(昨年度8件)、
その他－30件(昨年度22件)

事 故 投薬関係－32件(昨年度32件)、離園－4件(昨年度3件)、転倒－18件(昨年度13件)、
利用者間のトラブル及び粗暴行為－11件(昨年度11件)、その他－40件(昨年度25件)
※内、通院・入院を伴う事故－12件(昨年度8件)

苦 情 1件(昨年度0件)－顔を合わせて挨拶をしてほしい等職員の態度について(ご家族より)。

13 会議研修委員会

各領域、委員会、係における方針、中間、総括会議、個別検討会議等の全体会議の開催や各種会議の運営方法の検討、施設内研修(学習会)の実施等を行った(但し総括会議は新型コロナウイルス感染防止のため対面での全体会議は中止し、各領域、委員会、係毎に作成した資料を基に書面形式で行った)。

協力歯科医療機関による学習会－「口腔ケア」について(10月25日、職員12名参加)。

嘱託医による学習会－「職場のメンタルヘルス」について(1月17日、職員12名参加)。

14 施設外研修

4 月 社会福祉法人制度改革事務担当者フォローアップセミナー
中国地区知的障害関係施設長会議

5 月 市民のつどい

6 月 リスクマネジメント研修／安全運転管理者講習

7 月 全国知的障害関係施設長等会議／働き方改革同一労働同一賃金セミナー
中国・四国地区知的障害関係施設職員研究協議会

8 月 特別養護老人ホーム旭川敬老園見学並びに研修／経営協セミナー
特定給食施設関係者研修会

9 月 クレーム対応研修／県福祉協会オータムセミナー
喀痰吸引等研修(全9回)／給食施設従事者研修会

- 相模原障害者殺傷事件から3年—生命の重みを問い支援と人権を考える岡山集会
- 10月 リスクマネジメント研修／手をつなぐ育成会中国・四国大会
社会福祉士実習指導者講習会／公正採用選考人権啓発推進員研修会／県福祉協会人事交流研修
- 11月 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修
年末調整・消費税の軽減税率制度等説明会
- 12月 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修
- 1 月 中国地区障害者支援施設部会研修会
- 2 月 アメニティーフォーラム／民間社会福祉従事者共済制度・育成制度事務説明会
- ※その他経験年数、職責等の対象別に実施された法人内研修に参加した。

15 行事

障害者スポーツ大会、浦安ふれあい夏祭り、レクリエーションフェスティバル、クリスマス忘年会、お飾りづくり、1日社会体験旅行、長寿祝賀会

16 施設実習

県下大学・短大・専門学校より23名(昨年度20名)、年間69日(昨年度84日)の受け入れを行った。

17 短期入所及び日中一時支援

短期入所—延べ利用者数488名(昨年度409名)、日中一時支援—延べ利用者数186名(昨年度260名)の受け入れを行った。

18 多目的ホールの貸出

泉の園家族会(4月、5月、6月、9月、10月、12月)
親子クラブ(10月)

19 施設等整備

老朽化していた門扉の取替工事を行った。
寮裏スロープ周辺部分の段差解消、手すりの設置等工事を行った。
寮裏西側の地面に大きく穴ができていた部分の舗装修繕工事を行った。

令和元年度【ネイチャーファーム】事業報告

はじめに

今年度は働き方改革、消費税の増税、軽減税率制度の導入等があり、働く場や就労支援事業等運営全体を模索する一年であったように感じる。また年度末には新型コロナウイルスの感染拡大により上半期低迷していたパン工場の収益にも重ねて影響が出る等、今後の事業運営について見通しの持てない不安が残るが、事業所皆で力を合わせなんとかこの難局を乗り切っていきたい。

1. 運営について

管理運営、支援体制の状況

職員配置 7.5 : 1

今年度も各工房共に就労支援事業により利用者への賃金支払いを行う事業所として日々の売り上げ目標や将来を見据えた取り組みを継続した。

花工房では前年同様に製造計画の見直しによる顧客対応が良い成果として反映され、受注販売の売り上げが伸びたこともあり、過去最高の売り上げを達成することができた。消費税増税等への対応については販売価格の見直しや新たなレジの導入等を行った。また10月より職業指導員（パート）を新たに1名雇用した。

パン工房では主な取引先2社に競合店が参入し、消費税増税時も販売価格はほぼ据え置きとしたことで年間売り上げは減少している。生産コストの削減や販売ロスの細かな見直し等も行ったが、先送りしていた設備の修繕、消費税増税等に伴うレジやソフトの買い替え、更には最低賃金引き上げや働き方改革の導入に伴う労務費の増加、新型コロナウイルス感染防止による販売先の縮小もあり収支改善には及ばなかった。また長年勤務された職業指導員（パート）1名が高齢を理由に退職され、10月下旬より新たに1名雇用した。

全体では働き方改革の導入により年5日の有給休暇の確実な取得が義務付けられ、利用者、ご家族の同意を得て、実働日数を6日増やし年間公休数を110日として賃金の向上を図った。

2. 利用者の状況について

定員20名 現員20名

花工房 6名（男）5名（女）1名（うち男性1名は定年後の再雇用の為一年ごとの契約）

パン工房 14名（男）9名（女）5名（うち女性2名は短時間契約者）

花工房では定年後の再雇用をしている利用者に体調を考慮した勤務や活動をしてもらったり、精神的に悩みの多い利用者には継続した話し合いを行って家庭や医療機関とも連携し無理のない活動をしてもらう等の配慮を行った。

パン工房では無断欠勤への対応や健康、生活面での悩み、金銭の管理等に関する個別の支援を家族や関連事業所の職員等と連携して行った。

3. 就労支援事業の内容

花工房

花苗・野菜の育成栽培、ハウス（作業場内店舗）での販売、法人内事業所での委託販売、バザー委託販売、岡山市指定配布（年4回）、市場出荷、生産者・業者への卸、学校・地域・各種団体からの受注、イベント出店（年間約17イベント参加）、仕入れ業、植栽の請負、下請け作業（米育苗箱の洗浄）、学校・地域を対象とした野菜収穫体験の受け入れ等を行った。

パン工房

製パン・製菓（焼き菓子等）の製造、店舗販売、バザー委託販売、病院・施設・学校売店への卸・委託販売、イベント出店、学校・地域・各種団体からの受注、学校バザー委託販売、小学生対象のパン教室（社協主催）、移動販売、企業PB商品の卸等を行った。

4. 支援内容

職業指導

花工房では報連相の徹底と作業の効率化、商品管理への意識向上や作業技術の支援を継続した。

パン工房では長年勤務されている別の職業指導員（パート職員）からも高齢を理由に退職の希望が出ている為、利用者個々に新たな作業題材の提供と技術支援を行った。また新たに雇用した職業指導員（パート）に店舗の環境作りや販売指導等に関わってもらったことで利用者にも良い影響が見られている。

生活支援

両工房共に個別支援計画に沿って健康や精神面でのケア等個々に必要とされる支援を行った。今年度も利用者を主体として作業や生活面に関する話し合いを各工房で行うことができ、自主的な行動や発言が見られている。また各利用者の生活環境に携わる家族や関係者との連携により様々なケースの問題解決をその都度行った。

5. 施設等整備について

花工房ではパイプハウスのビニール張り替え、ボイラーのファン故障による修繕、消費税増税等に対応したレジの導入を行った。

パン工房ではダムウエーター老朽化による修繕、食品表示ラベルプリンターや消費税増税等に対応したレジ、ソフトの導入を行った。

6. 勤務計画について

花工房では繁忙期、閑散期に応じて流動的に勤務を作成した。

パン工房では各々の通勤手段、作業能力、技術を考慮したローテーション勤務を作成し、必要であれば勤務の変更を本人、ご家族の同意のもとに行った。

7. 防災関連

避難訓練を4回実施した（火災2回、風水害1回、地震1回）。

8. リスク管理

ヒヤリハット、事故報告の徹底を心がけ記入を呼びかけた。また商品へのクレーム、問い合わせにも対応した。今年度は課題であった事故原因や対策を考えて再発防止に繋げる作業現場の事故報告書の作成を行い、その都度記入することで意識の向上を図った。パン工房では衛生管理の徹底により異物による苦情が減少傾向にある。

9. 保健看護

健康診断（年1回）、インフルエンザワクチン接種、ストレスチェックを実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、検温、施設内消毒、換気、マスクの着用、手洗い、手指消毒の励行等を行った。

10. 自治会

利用者主体での会議を定期的に行い、アンケート等も取り入れ、両工房共に年2回の食事会（外食）を行った。

11. 苦情及び事故

苦情 ・パン工房でカビ2件、異物の混入7件、包装不備7件、配送ミス2件の苦情を受けている。

事故 ・パン工房でパンスライサーによりケガ（切り傷）をする事故が2件（利用者1件、職員1件）あった。

・自転車での通勤途上で車との接触事故が1件（利用者1件）あった。

1.2. 家族会活動

例年通りの定例会議の他、花工房及びパン工房で作業ボランティアをしていただいた。また法人内の他事業所家族会との合同親睦家族会に、職員も参加させていただき良い交流の機会となった。

1.3. 地域活動

隣接地域小学校夏休みパン作り教室の開催、近隣保育所・幼稚園お散歩見学の受け入れ等を行った。

令和元年度【桑野フレンドリーハウス】事業報告

1. はじめに

生活介護事業も平成5年に通所更生施設としてオープンして27年目になった。ご利用者の平均年齢も42.1歳となり、親御さんの高齢化や病気・入院、介護施設への入居等のケースが昨年度よりも増えている。それに伴い利用者の方の家庭での生活面の支援が必要となってきている。特に生活介護の利用者は重度の方が大半を占めておりご家族が健康を損なうと特別な送迎や病院での見守りといったニーズもみられている。最大限の便宜を図ることを制度面でも求められており、地域の資源を利用しながら当該の利用者の支援にあたっている。具体的には足首を複雑骨折した方の病院での見守りやご両親の高齢化と入院に伴い複数の短期入所事業所を1年近く繋いで支援施設に入所することが出来た方もおられた。その間事業者間の調整や買物、短期入所事業所への送迎が続いた。また、調整が難しい場合は制度外の支援も取り入れて支えた。

就労継続と併せて現在20名の方がグループホームを利用されているが、いずれも夜間支援体制が整ったグループホームでないと利用することが出来ないのが現実である。今後のニーズに対応する資源作りが求められている。1年近く短期入所事業所を渡り歩かないといけない現状を変えていかねばならない。

地域での生活が少しでも維持されるようにヘルパー等の社会資源を早めに利用し、親御さんの負担を軽減していく必要がある。相談支援事業所等の社会資源と連携を取りながら、利用される方に寄り添いながら、自己決定・自己実現を支援し家庭生活の維持を図っていく必要を強く感じる。

2. 利用者の状況及び活動状況

○定員 40名 契約者数 48名

○開所日数 260日 ※前年度 261日 原則日数 270日

○定員に対する利用率 104.6% (103.1%) ()は昨年度

○介護給付費の動向 128,662,912円 101.1%(前年度比)

昨年度の後期より重度障害者支援加算の請求をした。

人員配置加算以上に重度障害者支援加算の方が収入増となっており、有資格者を増やすことにより専門性に裏付けられたサービスの提供に尽くした。

○利用者の状況

- ・グループホームや泉の園の短期入所の利用が体験利用を中心に増加した。定期的に利用する方が増えた。今後の見通しをもつ為の体験利用である。
- ・親御さんの病気による短期入所の件数が増えている。併せてインフォーマルな「ごろちゃん」の利用も緊急対応時に機能し増えている。
- ・健康面で利用日数が開所日数の半分に満たない方が約3名おられる。しかし、未だに定員超過の現状である。監査では指摘を受けてはいないものの、今後は定員に近い契約者数にしていく。また、複数の事業所を利用されている方も3名在籍されている。

○活動の状況

- ・日中活動の提供について一人ひとりの希望に沿った活動の提供をした。中にはどのプログラムも望まれない方もおられるが、それをご本人の意思と受け止めて活動を強いることはしないよう努めたが、大きな課題として残った。
- ・今年度は宿泊を伴わない一日社会体験を実施した。各グループ単位で実施した。
- ・一面では今年度も創作的活動に力を注いだ。ふれあいまつりやプロムナード及び2階の展示コーナーにて小さな美術館を開催した。

3. 管理運営・職員支援体制の状況

- ・人員配置体制を2.5:1としていたが、人員配置体制加算の請求をやめて加配された換算分の有資格者で重度障害者支援加算を請求するように方向性を決めて支援現場にも活かすようにした。資格者にとっては大変な苦労を強いることとなったが、運営上は有効であった。対象者も定員の半分在籍しており支援区分の高い事業所であることを改めて認識した。

- ・人材不足で思うような職員の確保が難しかった。ハローワークでの求職者の反応も鈍かった。
- ・前々年度よりバスの運転手を2名体制で運行していたが、前年度から1名体制となった。今年度途中より1名決まり再度2名体制で運行することが出来るようになった。職員の負担を減らす意味でも送迎の出来る複数の運転手を雇用していきたい。しかし、応募のある方が70代で高齢である事もリスクと言えバリスクであり継続の見極めが難しい。
- ・重度障害者支援加算の要件である強度行動障害者支援者養成研修を積極的に受講させ、専門的な支援の提供を行なっていく。今年度は4名受講し計7名の資格者を確保した。
- ・前年度同様に男性スタッフの人材不足であった。不足(1名)をパートスタッフで補っている為、送迎や生活支援に男性スタッフの負担が大きくなっている状況は改善されていない。
- ・利用者の支援区分の内訳 6・20名 5・17名 4・10名 3・1名
平均支援区分 5.16(前年度 5.16)

4. 苦情及び事故

苦情 なし

ヒヤリハット 重大事故 -6 事故 -18 他害行為 -36 所在不明 -5 外傷転倒自傷 -7
送迎ミス -4 盗食飲 -10 服薬ミス -1 ミス -14 その他 -5

※昨年と比較してヒヤリハット事例が極端に増えた。定義は変わっていない。極端に多くなった原因の1つには同じ人が繰り返していることが挙げられる。ただ、昨年度1件であった重大事故が6件になっていることに関しては職員に注意喚起を促している。

5. おわりに (今後の課題)

冒頭でもふれたとおり、夜間支援付きGHが整備され、当事業所及びワークプラザでも多くの恩恵を受けた方やその家族がいる反面、新たに両親の高齢化や入院、介護施設への入居等で新たな暮らしの場を求めている多くの方々がさらにおられる。GHや施設入所を希望されていても空きがない為に、緊急で長期にわたってショートステイのニーズに変わり、昨年度の2月より複数の事業所の協力を得て私どもがサービスを繋いでいる利用者が生じた。幸い12月に入って相談支援事業所の繋ぎで入所することができた。10カ月にわたり不安定な、かつ、不安な時を過ごした。そうした事例を見た時に地域生活の難しさが露呈されていることを思う。日中活動支援の事業所の避けられない課題である。

いよいよ、自分の家、親や親族と別れて暮らさなければならない状況になった時にセーフティネットが張り巡らされた社会であって欲しい。ワンストップで思いを叶えられる、せめて、すぐれる糸が1本でもある社会を作る必要があると考えさせられたMさんの10カ月であった。

以上

令和元年度【桑野ワークプラザ】事業報告

1. はじめに

総合福祉法の就労関係の事業の着目点は、福祉脱却し就労につなげていくこと。いかに高い給与、工賃を支払えるかを命題として求めている。そうした中で就労継続支援B型として運営をしている当事業所についてもこの命題をいかに達成することが出来るかが求められている。

当事業所は、工賃が1万円以上2万円未満の7段階中の5番目のランクを給付されている。しかし、現状は平均年齢も上がり、労働能力をはじめとする作業能率や作業意欲についても低下しつつある現状での工賃のアップは難しい課題となっている。グループホーム等での生活者も増えており、今後とも少しでも高い工賃の支払いを目標に取り組み、生活の質を高めていく為には所得アップが大切なこととなる。

色々な現状の中でも利用者一人ひとりの働くことへの意欲やプライドを大切にして労働を生きがいとできるように支援をしてきた。

2. 利用者の状況及び活動状況

○定員 20名、契約者数 21名（-1名） ※6/25 心不全の為、他界された

○利用率(定員緩和率) 98.2% (前年度 101.8%)

○訓練等給付費の動向 45,084,987円(前年度対比 97.9%)

○利用者の状況

- ・高齢化からの機能低下や意欲の減退等が顕在化してきた。平均年齢は 42.56歳となっている。67歳を筆頭に平均年齢の前後という方が大半を占めており、利用される方の入れ替わりは殆ど無く一番若い方で 31歳という状況にある。
- ・働くことを日課の中心とすることに無理を生じる方も見受けられている。今までも当事業所から生活介護へ移行された方も複数名おられ、各個人の意思を確認しながら今後の利用計画を立てている。今年度については、他事業所への異動はなかった。

○活動(作業)の取り組みの状況

- ・センターの花の管理と掃除…ふれあい公社からの業務委託。随意契約。

外周清掃 1,275,248円

植栽管理 591,216円

樽交換費 81,750円

- ・出向作業(ペットボトルの選別)…回数も多く出掛けた。 200,000円
- ・赤玉土の封入…雨の日の作業として有効であった。 6,270円
- ・ペットフードの封入…題材が途切れる事が時々あった。 162,263円
- ・ダンボール加工…題材が減っており取引も少なくなっている。 78,225円
- ・箸入れ…閑散時のつなぎとして行なっている。 39,970円
- ・クッキーの生産…大口の注文が少なくなる傾向。競合が多い。 1,440,000円
- ・その他、官公需として岡山市下水道局の西大寺地区の緑化フェアで配布する腐葉土の袋詰め、岡山社会就労センター受注としてファイルの組み立てと配達。おかやまマラソンの備前焼メダルの紐通しと封入作業、雑収入として古紙やダンボールからの収益を得た。

※昨年度との売り上げの比較

平成 30年度 売上総額 3,959,360円

平成 31年度 売上総額 4,035,487円 前年度比 101.9%

※労務費も総額で 33,040円向上した。来年度も上方に目標を掲げていく。

○活動について

- ・4回特別活動を実施した。4月/花見(黒井山)、8月/調理実習(カレー・ふれあい調理実習室)、10月/焼肉(焼肉大国)、1月/初詣(玉比神社)
- ・希望者には講座(お茶・踊り)の受講の提供をした。

3. 管理運営、支援体制の状況について

支援員を正規職員で1名加配し、5名で支援した。現場の職員数5名は昨年度4名で職員の負担

を考えた場合に必要だった。

4. 苦情及び事故等

苦情	なし
----	----

事故	重大事故(通院等に関わるケース) なし 他害行為 -3 所在不明 -3 外傷・転倒・自傷 -3 盗飲食 -1 ミス -2 その他 -3
----	---------------------------------------------------------------------------

〈事業所共通の取り組みについて〉

1. 年間行事について

年間行事については前年度と同様に障害者スポーツ大会、招待ボウリング、ふれあいまつり、ゆうあい文化祭、クリスマス会、節分会等の歳時行事を実施した。

2. 土曜開所について

昨年度同様に土曜日を開所日として設定し、ボウリングやカラオケ、おやつ作り、散策、レクリエーション等利用者のニーズに応じてサービス提供した。
来年度については、福祉サービス支給量の原則日数に近い開所日を設定する。

3. 工賃の支給について

ワークプラザ(就労B)は、作業に参加したか否かを基準に支給した。少しでも前年度を上回る工賃の支給が出来るように努めた。
フレンドリーハウス(生活介護)については手芸品、軽作業、ペットボトル等の収益が出た場合は、売上から経費を差引いた金額を年2回に分けて配分した。

4. 給食提供について

例年どおり、魚宗フーズに業務委託し、サントピアからの給食提供を受けて配食した。
健康状態、栄養状態や家庭からの要望等に対応して提供した。また、希望に応じて外部からの宅配にも対応した。弁当持参する人の保冷等の管理にも対応した。

5. 健康管理について

健康については特にご家庭との連携の中で細かい配慮を行った。看護師を中心に健康状態の把握に努めた。必要な方については、定期的に健康状態をチェックし、活動を提供した。毎月の体重管理。感染症対策の検温は継続して行った。

6. 利用者の送迎について

安全運転に留意し無事故を目標にサービスを提供した。事故は幸いにして無かった。

7. 地域交流について

ふれあいセンター内の事業所との交流行事、地区社協主催の敬老会等の交流行事を実施した。
また、ふれあいまつりではボランティアの方に積極的に参加をいただいた。

8. 安心、安全な支援体制づくり

サービス提供の基本は、まず前提に安心して安全に利用することができることである。リスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努めた。
ヒヤリ・ハットについても終礼にて対応策も含めて話し合いの場を設けた。件数については、各事業所の項目に上げている。ヒヤリ・ハットを少なくする努力をすることが事故を未然に防ぐことに繋がるものと考え、リスクに対しては緊張感をもった職場でありたい。

9. 苦情・解決

苦情・意見は真摯に受け止め、発生した事案については「すばやく」「かくさず」「誠意をもって」対応していくと共に十分に原因を探りその防止に努めていく。今年度については意見が2件上がっている。処理済み。

10. 非常災害対策計画

地震やそれらから派生する水害等に対しての避難の想定及び対策を「事業継続計画」としてマニュアル化した。昨年度より取り組んでいる非常食の備蓄の2回目が終了した。今年度は食品の他に簡易トイレや火気類、灯火類の整備を合わせて購入した。

11. 防犯対策について

不審者の侵入等から利用者の安全を保障する為に外部からの見知らぬ方については、積極的にお声掛けをした。声をかけて相手の反応をみることで判断し防犯に努めた。

12. 自己研鑽の強化と従業者の資質の向上

職員の意識改革、スキルアップの為に今年度も引き続き研修に参加した。また、個々の目的や希望に基づいた研修についても勘案しながら前向きに参加を検討した。事業所内研修については、各事業所の目的や専門性に応じた内容の学習会を計画し実施した。

以上

令和元年度【共同生活援助事業所】事業報告

1. はじめに

今年度6月に持病の心臓病が悪化し、女性利用者が病院のHCUにて急逝された。彼女の人生は果たして幸せであったのか考えさせられる出来事であった。平成17年アパート型ホームはちみつでグループホームの生活がスタートした。当時は気ままにふらっと出かけ、時に地域の中でトラブルになったことが思い出される。その後心臓の病や骨粗しょう症が少しずつ進んだ。そしてアパート型ホームでの生活が困難になり、平成29年6月に夜間支援付きホームひばりへ転居となった。ここ数年の彼女の生活は健康維持が一番の課題となり、厳しい食事管理や外出等の制限を行ってきた。そんな中での突然の出来事であった。

ここ数カ月、新型コロナウイルスにより、我々は様々な制約の中で生活を送っている。その中で日に日に大きくなるストレスを我々は身をもって感じている。ホームで暮らす方の中にはストレスを日常的に感じつつも表現できない方がいらっしゃるのではないかと、亡くなった彼女がそうした一人ではなかったのか、ここで暮せてよかったと感じてもらえるホームでありたい。

今はなによりもコロナの終息を願うばかりである。

2. 支援目標について

- ①地域での個々の生活を大切にし、食事の提供、健康管理、その他日常生活の支援を行う。
- ②入居者が地域住民として責任と誇りをもって生活できるよう支援を行う。
- ③入居者が安心、安全に暮らせるよう施設整備や地域との連携を行う。合わせて災害を含めたリスクへの対応策を具体的に講じていく。
- ④支援においては、地域で暮らす一住民として入居者の意思を尊重し、自己選択、自己決定をそれぞれの生活場面で実践していく。

3. ホームの状況及び定員について

1) グループホームビーネン	定員 4 名 (現員 4 名)	南区福富西
2) グループホームニュービーネン	定員 4 名 (現員 4 名)	南区福富西
3) グループホームはちみつ	定員 2 名 (現員 2 名)	南区福富西
4) グループホーム菜の花	定員 4 名 (現員 4 名)	南区福富西
5) グループホーム福富 I	定員 4 名 (現員 4 名)	南区福富西
6) グループホーム福富 II	定員 4 名 (現員 3 名)	南区福富西
7) グループホーム泉	定員 4 名 (現員 4 名)	南区福富西
8) グループホームみのり	定員 2 名 (現員 2 名)	南区福富東
9) グループホームゆたか	定員 7 名 (現員 7 名)	南区豊浜
10) グループホームひばり	定員 7 名 (現員 7 名)	南区豊浜
11) グループホームこかげ	定員 7 名 (現員 7 名)	南区豊成
12) グループホームつぼみ	定員 7 名 (現員 7 名)	南区豊成
13) サテライト福富 I	定員 1 名 (現員 1 名)	南区福富西
14) サテライトはちみつ I	定員 1 名 (現員 1 名)	南区福富西
15) サテライトひばり I	定員 1 名 (現員 1 名)	南区福富西
	定員 59 名 (現員 58 名)	

空き部屋がグループホームはちみつに 2 部屋(グループホームとして届出を行っておらず)、グループホーム福富Ⅱに 1 部屋、計 3 部屋あり、早い段階の満床をめざしたい。

4. 利用者の状況について

5 月にホームはちみつへ女性が 1 名、9 月にホームひばりへ女性が 1 名、12 月にホーム福富Ⅱへ男性 1 名が入居し新たな生活を始めた。

持病の心臓疾患が悪化し 6 月 29 日、入院先の HCU にて急逝した。ひとの人生を預かる重みを考えさせられる大きな出来事であった。

近隣や病院、コンビニ等への迷惑行為が多かった方、度々スーパーから苦情があった方など地域の中で支援することの困難さを感じた。

2 名の方が精神科病棟へ入院された。内 1 名は昨年 11 月からの入院で、未だ退院の目途がたっておらず長期化している。

5. 職員体制について

管理者 1 名(世話人兼務)、サービス管理責任者 4 名(生活支援員兼務)、生活支援員(世話人兼務含む)実人数 10 名(常勤換算 7.3 以上)、世話人(生活支援員、夜間支援員兼務含まず)実人数 27 名(常勤換算 13.2 以上)、看護師 2 名(パート、10 月 1 名採用し、11 月より 1 名が入院)、夜間支援員 7 名(内世話人兼務 2 名)、事務員(世話人兼務) 2 名で支援を行った。今年度も退職や病欠等で世話人の勤務状況が不安定であった。

6. 利用者支援について

前にもふれたが近隣への迷惑行為が広がり、当ホームで抱えきれなくなった方がいる。先の見通し、こづかいや健康、食事等で不安定になることが多く、障害特性の理解や専門的取組みが必要であったが力及ばず、令和 2 年 7 月でサテライト受給満了に合わせて他法人に今後の支援をゆだねたいと考えている。(ただコロナの影響で進展はなし)

人間関係の調整も多かった。隣室がふすま一枚という部屋の構造にも問題があり、新たな物件を模索することも行っていきたい。

また、今期は支援目標にもあげたが、個の生活を大切にしようとして外出や活動をできるだけ個別でまたは少人数で行ってきた。ただ年度の終わりにはコロナの流行により個別外出等の中止を余儀なくされた。

7. 事業所運営について

長期の入院や空き部屋があるなどで今年度も厳しい運営となった。また消費増税に伴い生活費が膨らんできており、省エネも意識的に行っていく必要がある。そして今年度より 4 名の方を「重度支援加算」の対象者として支援を行っている。少しでも収入が伸びるよう来年度も継続したい。

8. 短期入所

女性の利用希望者も徐々に増えてきた。またご家族の死去や介護施設への入居等で単身になられた方の利用も増えてきつつある。将来的にはグループホームへの入居が必要

であるが、ホームが空いておらずとりあえずショートステイでつないでおられる。

契約者数は男性 35 名（昨年度 29 名）、女性 21 名（昨年度 21 名）。今年度利用実績は、男性のべ 520 日（昨年度 276 日）、女性のべ 231 日（昨年度 118 日）の利用があった。（一日 1 ホームにつき 2 名利用の換算あり）

9. 苦情、事故、ヒヤリハット

<苦情>

苦情としての提出は 0 件であったが、職員による散髪の是非等全体会議で議論を行った。

<ヒヤリハット>

他者のジュースを飲む、転倒、服薬確認ミス、他事業所の敷地へ入る、連絡帳の渡し忘れ、鍵の紛失等 18 件（昨年度 8 件）

<事故>

転倒、興奮しての怪我、興奮しての器物破損、他害による怪我、生肉を食べる、レシートの紛失、服薬ミス、落葉、公用車の自損、興奮による自室の壁、窓ガラス、センター玄関ドア等の破損、地域の方の車を傷つける等 25 件（内岡山市へ報告 1 件、昨年度 21 件）

10. その他

イオン社会福祉基金様より福祉車両の寄贈があった。11 月 20 日にイオン青江店で贈呈式があった。大切にまた有意義に使わせていただきたい。

令和元年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

1. はじめに

居宅介護では、衣・食・住に関する様々な支援がなければ日常生活が成り立たないケースが多く見受けられた。居宅介護で支援に入るケースでは一人暮らしの方が多く、居宅介護員が訪問することで人との繋がりが出来、安心感を得られているように見受けられた。又、施設・グループホームを希望しても空きがなく在宅生活を送られているケース、逆に終の棲家として在宅を希望されているケースと生活のニーズも様々である。

外出支援(移動支援・行動援護)では支援を受けることで安心・安全に社会参加・余暇活動を送ることが出来、新しい世界を体験出来たり、出来ることが増えていったりと生活が豊かになっている。

パンフルートに求められていることは生活の基本であると考え出来る限りの対応をした。

2. 職員の状況について

・常勤職員 4名(1名グループホーム兼務)、非常勤職員 1名、登録ヘルパー3名(10月1名退職にて2名となる。3月から登録ヘルパー1名、親の介護にて土・日の移動支援・居宅介護にほとんど入れなくなる。)

11月より1名減の7名体制で事業運営にあたった。

3. 苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

ヒヤリ・ハット 4件・ケア事故 1件

(ヒヤリ・ハット)

・訪問漏れ。10:00～11:30の援助予定を忘れており、利用者さんからの電話で気付く。謝罪し時間変更にて対応させて頂く。

・行動援護時、着替えの肌着をなくしてしまう。カラオケ店から連絡があり見つかる。

・朝の送迎(福祉有償運送)の時間を間違えてしまう。他職員が気付き代わりに対応する。

・移動支援でグループホームの利用者さんが自分で管理していた居室の鍵を失くしてしまう。バス内で落とした様子だった為、バス会社へ問合せをし後日忘れ物係より見つかったとの連絡あり。

(ケア事故)

・重症心身障害の利用者さん入浴介助後、電気シェーバーで髭剃り整容時鼻の下に小さな傷を付けてしまい少し出血してしまう。ティッシュで押さえると血はすぐ止まる。傷は目立たない程度であったが、本人・ご家族へ謝罪し、後日確認したところ傷は大丈夫であった。

* 苦情なし。

4. 経営状況

居宅介護事業(家事援助・身体介護・行動援護)については前年同数の33名。訪問回数の多い利用者が6月に入所された為、支援時間が減少した。

地域支援事業(移動支援)については11月(有給で実質10月)に登録ヘルパー1名退職。3月より登録ヘルパー1名も親の介護で土・日・祝日ほとんど稼働出来なくなったため支援時間が減少した。

福祉有償運送はほぼ毎月数件の依頼・問合せがあるが既存利用者(居宅介護・地域支援事業)の対応で受けられない状況である。

収益面は依然事業所単独での経営は難しく、繰入を仰がなければならない状況である。

5. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通り。

(1) 居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
33名	3,686.5時間	0件	1件

*昨年度支援時間 3,889時間

- ・利用者数前年 33名。新規も受けたため前年同数だが、訪問回数の多い利用者が入所された為、支援時間が減少した。
- ・新規依頼の傾向として精神障害の家事援助依頼が多い。

(2)移動支援事業

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
30名	2,179.5時間	0件	0件

*昨年度支援時間 2,319.5時間

- ・利用者数前年 37名。
- ・30名中 18名が法人内グループホームの利用者。地域の利用者への対応は十分とはいえない状況。支援時間は一回約 5時間。
- ・新規依頼は 4件あり。障害児の通学・通園の支援依頼が多くなっている。既存の利用者の対応で空きがなく対応出来なかった。
- ・土・日・祝日に稼働出来る登録ヘルパーが減った為、稼働契約者数、支援時間ともに減少した。

(3)いきいきいずみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
3名	2.5時間	0件	0件

*昨年度支援時間 1時間

- ・利用者数前年 1名。
- ・制度が利用出来ない場合にいきいきいずみサービスで対応。

(4)福祉有償運送事業

稼働契約者数	利用件数	総走行距離	苦情件数	事故件数
11名	519件	6,410km	0件	0件

*昨年度利用件数 639件 昨年度走行距離 8,389km 登録者数 77名

- ・稼働契約者数は前年と同数。法人内生活介護への送迎・通院等介助時での利用がメインである。
- ・週 5日利用されていた方が骨折で5か月入院されていたため利用件数は減少。
- ・福祉有償運送の新規依頼はほぼ毎月数件依頼はあり。登録者数は増えているが依頼時間帯・人員不足の関係で希望通りは受けられない状況である。

6. 今後の課題

新型コロナウイルスの影響で 4月より外出支援(移動支援・行動援護)の支援時間を利用者・職員の安全確保の観点から短時間支援に変更している。(約 6割減) 外出支援についてはこの先も見通しが立たない状況が続いていくと思われる。

居宅介護、移動支援ともにヘルパー支援を求められている方は多いが、ヘルパー不足の状況は続いており十分な対応が出来ていないのが現状である。地域での生活を希望されている方の多様なニーズに応じていく為、又、収益改善を図るためにヘルパーの人員確保・質の向上は必須課題である。

令和元年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

1. (はじめに)

計画相談支援、障害児相談支援および地域移行支援については地域からの要望に応じ、徐々に対応件数の増加に向けて取り組んだ(対前年同時期比66%増)。一方、個別給付以外の一般的な相談に加え専門的な相談支援の実施や、事業所支援や研修の機会により地域の支援力向上の一助としての取り組みも自立支援協議会を通じながら実施した。また、地域生活支援拠点事業(24時間対応等)に関しても体制を整備し、地域ニーズの対応及び人材の育成等に向けて取り組んでいるところである。

2. (管理運営、相談支援体制の状況)

管理者	相談支援専門員	事務員	計(実人員)
1(兼)	4(兼1)	1(兼)	5

3. (実施の重点として)

ア) 計画相談支援・障害児相談支援

計画相談・障害児相談への依頼は随時対応する中で、自立支援協議会を通じて地域の相談支援事業所へのつなぎで対応することも多くなっている。

イ) 岡山市相談支援事業

複合的な課題を有する事例への対応に関し、市の総合相談体制との連携を図りながら専門性を発揮できるように努めた。

ウ) 岡山市地域生活支援拠点事業

常時の相談受付体制、緊急時支援、人材育成(相談支援 OJT)などに取り組んできた。また、地域づくりの一環として、地域の相談支援事業所やサービス提供事業所との連携や質の向上を意図した取り組みも実施。

エ) 地域移行支援

自立支援協議会の枠組みの中で、精神科病院からの地域移行支援並びに地域定着支援の取り組みを進めているところである。

4. (地域の支援に関する取組み)

○障害者自立支援協議会(県・市)

(岡山市) 運営に関する会議、各種専門部会やワーキンググループ、地区における事例検討会・課題整理、に参加した。

(岡山県) 昨年度設置された専門部会(人材育成部会)での取り組み。

○相談支援専門員の養成および育成

- ・岡山県実施の初任者研修・現任者研修(講義・演習)に協力した。
- ・市主催の計画相談支援に関する研修の企画運営等に協力した。

○県立支援学校・地域包括支援(介護支援専門員)および医療機関等

- ・地域連携に係るネットワーク会議(主に南区)やケア会議に参加。

○岡山県障害者相談支援アドバイザー事業

- ・県下市町村への支援(協議会、地区体制整備支援、困難事例のケース会議等)を実施。

(職員の派遣)

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自立支援協議会(県市)	4	7	5	4	6	8	8	6	8	4	8	5
県アドバイザー事業	1		1		2	2	1		2	3	2	1
機関との会議等	2	2	2	7	4	3	1	2	2	7	2	3
各種研修会等	2		1	3	3	3	1	1		1	4	1

5. (職員の研修)

開催月	派遣内容	主催	開催地	備考
毎月	市協議会地域部会事例検討会	市協議会地域部会	岡山市	
4月	知福協中国地区施設長会	広島県知福協会	広島市	
7月	岡山市精神障害者地域移行支援連絡会	岡山市	岡山市	
9月	厚生労働省相談支援従事者指導者養成研修	厚生労働省	所沢市	
9月	岡山市退院後支援担当者連絡会	岡山市	岡山市	
10月	相談支援・就業支援セミナー	日知協	横浜市	
10月	障害児相談支援に関する研修会	岡山県	岡山市	
10月	岡山市精神障害者地域移行支援連絡会	岡山市	岡山市	
10月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	岡山市	
11月	全国相談支援ネットワーク研修会	日本相談支援協会	府中市	
11月	医療的ケア児等支援コーディネーター養成研修	岡山県	岡山市	
12月	岡山県精神障害者対応力向上研修会	岡山県	岡山市	
12月	医療的ケア児等支援コーディネーター養成研修	岡山県	岡山市	
12月	岡山市精神障害者地域移行支援連絡会	岡山市	岡山市	
1月	相談支援従事者養成研修企画運営検討会議	厚生労働省	福岡市	
1月	精神障害者地域移行・地域定着に関する研修会	岡山県	岡山市	
1月	地域移行支援・地域定着支援事業研修会	岡山市	岡山市	
1月	岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修	岡山県	岡山市	
1月	岡山市共生社会人材育成研修	岡山市	岡山市	
2月	介護支援専門員とのコラボレーション研修	県専門員協会	岡山市	
2月	セルフマネジメント研修	岡山県	岡山市	

6. (次年度に向けての課題や取組みについて)

地域的課題である計画相談支援および障害児相談支援の対応増を図ってきたところであるが、今年度全期にわたって受け入れをしてきたこともあって、契約者数が大幅に増加した。また、岡山市の相談支援体制再構築の一環として、平成30年度から国より示されていた標準モニタリング期間への導入が図られることとなり、現在の稼働状況からすれば今後の新規受け入れは難しくなる見通しとなっている。

地域生活支援拠点の枠組みである相談支援専門員の個別支援をテーマとしたOJT事業(岡山市)は2年目を迎え、今年度は4名の方を対応させていただいた。

年度末から発生している新型コロナウイルスの影響により、地域連携を意図した取組みが延期となり見通しは掴めないが、今後とも「地域力強化」、「我が事・丸ごと共生社会」の実現に向けた取組みとして、当事者が地域の中で安心して自分らしく暮らしていくために「共生社会の中での役割」を意識しつつ地域の声を届ける等の取組み、サービスの質向上や支援者支援なども含めて、地域内や行政をはじめとする関係の機関との連携を密に取り組んでいきたいと考えている。また、次年度の動きとして、岡山市虐待防止対策支援事業を受託する見通しとなっており、新たな取組みとして岡山市全域をカバーしつつ、法に基づく責任ある対応が求められることとなる。

広域的な取組みとしては、県内市町村・圏域からの相談支援体制に関する支援に対し岡山県庁を通じて取り組むことと、また、次年度より新カリキュラムとして実施される相談支援初任者研修並びに現任者研修に係る法定研修等への協力に向けて動きが視野に入る。

事業所の課題としては、事務所内のスペースが非常に手狭になっており、業務に支障が出ることもしばしば見られるようになってきたことから、今後は周辺事業の動向や兼ね合いを見ながら対応策を検討していきたい。

令和元年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

今年度は、経営状況安定に向ける為、動きを整えていくことに力を入れていく予定であった。しかし、支援者の変更や管理者の変更により、現状の維持を図ることが優先される状態であった。また、消費増税の対応や新型コロナウイルス感染症拡大の影響に頭を悩ませることとなり、経営の安定を図ることに苦慮している状況である。難しい現状ではあるが、支援者間での協力体制の強化に努め、知恵を出し合いながら何とか乗り切れるよう努力をしている。さらなる打開策を検討し、対処していきたい。

《生活介護事業》

一年を振り返ると、年度当初は支援者の大幅な変更により、不安を抱えながらのスタートであった。しかし、ご利用者一人ひとりに向き合い、ご利用者の目標に向かって一緒に取り組み、支援についても支援者間で情報共有をしっかりとすることで周知徹底を図れていたように感じる。それに伴ってご利用者の様子や活動室内の雰囲気も良い方向に変わりより温かみのある事業所となったように思う。

1、定員並びに利用状況

- 定員:10名(変更なし) ○4月～3月平均利用率:117%
- 契約者数:16名(令和2年3月31日現在)
 - *新規契約1名(支援学校卒業)→4月
- 障害支援区分:平均5.6(区分6→11名、区分5→4人、区分3→1人)

2、職員配置 変更なし(人員配置1.7:1)

- 正規職員 1名 令和元年5月1日～産休、育休明けて勤務
- パート職員 1名 令和元年12月1日～産休、育休明けて勤務

3、主な支援内容

- 午前中は個のニーズに沿った活動を提供するための個別活動、午後は仲間とのふれあいを楽しんでいただくため、集団での活動を提供した。
- 個別活動(午前):創作・園芸・羊毛フェルト・ビーズ・パズル・運動・機能訓練他
支援目標に沿って取り組み内容を考えた。支援内容を周知することで、支援者全体が意識して取り組んでいる。情報共有については、口頭での周知や書式の変更を行なうことでご利用者の健康チェックや活動内容の充実等、様々な面でカバーし合えるよう工夫した。
花壇では季節を感じる植物や野菜を育て、成長の観察や収穫物を使用しての作品作りに取り組む機会を設けることができた。
- 集団活動(午後):外出・レクリエーション・おやつ作り・クラブ活動・創作他。
季節感のある活動を取り入れた。また利用者同士の思いやりを育み、協力を意識した支援を心掛けた。毎週水曜日の「うらじゃ踊り」では、楽しんで身体を動かす機会となり、ご利用者の中では定着した活動となっていた。

《就労継続支援B型》

今年度は作業に対する取り組みがグループによって大きく異なり、売上げが伸びたグループもあれば売上げが大きく下がったグループもあり、前年度の月平均工賃を維持することがやっとの状態であった。特にカフェつみ木では、消費増税に伴って原価を抑えたメニュー単価の改定に取り組んだ。しかし、増税と単価アップの影響で売上げが伸びず、年度後半には新型コロナウイルスの感染拡大により、さらに客足が遠のく結果となった。

くらふと、スイーツも取引先からの注文や題材入荷が滞るようになり、日々の題材確保も

難しくなっている。事業所内で、希望する支援者の昼食、夕食用のおかずの受注をつみ木で受けて売上げに繋げたり、手作りマスクの制作・販売をしたりする等の自主製品の制作販売をしていく工夫や新たな作業題材確保に向けて動くこと等で乗り切っていきたい。

1、定員並びに利用状況

- 定員：30名 ○利用率平均：94.3%
- 契約者数：37名(令和2年3月31日現在)
- *新規契約1名（一般就労退職後の利用）→4月

2、職員配置 変更なし（人員配置6：1）

- 正規職員1名、2月29日退職。○正規職員2名、6月1日採用、7月1日採用

3、主な作業内容

- スイーツ（食品加工） 収支差額：225,892円
 →*収入：3,482,884円（前年度より160,644円増）
 *支出：3,256,992円(原材料費1,279,598円、経費635,139円、工賃1,342,255円)
 元気の輪、岡山県セルフセンター、倉敷アイビースクエア、第一エージェンシーと
 変わりなく取引きすることができた。バザーでの売上げは大きな収入源となったが
 岡大医学部売店や個別の取引きでもさくら焼き菓子が周知され、注文を頂くことが
 できた。
- くらふと（製品加工・手芸・施設外就労） 収支差額：-453,348円
 →*収入：1,278,135円（前年度より462,515円減）
 *支出：1,731,483円（原材料費103,893円、経費26,430円、工賃1,601,160円）
 年度前半で島村青果（市場）の施設外就労への取り組みが不調となり、取引きが
 中断されてしまった。島村青果からの収益分は減ったが、ポストインの施設外
 就労や刺し子の受注生産、箸入れ作業を行なうことで凌ぐこととした。ただ、箸
 入れでは単価が低く収益増が見込めない為、新たな作業題材確保に向けて動きを
 取った。年度末に、新たな施設外就労先と契約を結ぶことができた。
- カフェつみ木 収支差額：-1,130,507円
 →*収入：12,228,380円（前年度より2,467,967円増）※但し、デイサービス分の収入増による。
 *支出：13,358,887円（原材料費4,798,673円、経費990,167円、工賃1,564,295円
 職員人件費6,005,752円）
 一日平均37,000円を目指したが32,672円と目標に届かなかった。今年度も売上向上
 の為第2、第4土曜日の営業を行なったが、売り上げ増に繋げることはできなかった。

4、利用者工賃

- 月平均：10,223円(前年度10,307円)。時給平均：128円（前年度128円）。
- つみ木は一律200円、くらふとは一律60円、スイーツは一律90円。但し、くらふと
 とスイーツはリーダー手当を支給。

《多機能型事業所さくらとして》

- 地域との交流
 - *郵便局・公民館・図書館・スーパー・散策等、意識的にご利用者と共に地域に出向く機会を増やし障がい者理解を広げる努力をした。
 - *様々なバザーにご利用者と共に出向くことで、多くの地域住民の方々との交流を図った。
 - *地域住民参加型餅つきを12月7日に実施した。福浜公民館館長・町内会長・子供会会長はじめ、沢山の地域住民の参加が得られた。

- * 福浜公民館祭りに展示と焼き菓子の販売で参加した。ご利用者も一緒に販売することで、地域住民の方々とのふれあいが深まった。
- * 地域美化活動を実施
- ボランティアの受け入れ
 - * 吉岡先生ギター演奏 * 太鼓演奏 (1人) * 夏ボラ (3人) * 餅つき (12人)
 - * 作業ボランティア (3人) (カフェつみ木→毎日、つくし→随時)
 - * 外出付き添い (1人) * 歌声喫茶 (10人)
- 全体行事
 - * 生活介護・就労継続の利用者同士のふれあいを意識しながら計画している。
 - * 日帰り社会体験 (11月)、クリスマス忘年会 (12月)
- 土曜開所:
 - * 社会との関わりを意識した内容を取り入れている。また、調理に取り組む機会も取り入れた。
 - * 生活介護→11人利用 (利用メンバーは固定している)
 - * 就労継続→平均 15人利用 (毎回、便りを出し希望を取っている)
- 健康管理: * 生活介護に 1名看護師を配属している。
 - * 定期健康診断(9月)受診 26人、インフルエンザ予防接種(11月)受診 36人
- 給食サービス: * 給食会議を 1回実施。* 今年度の嗜好調査は 1回行なった。
- 送迎サービス: * 生活介護→15人 就労継続→14人
 - * ご利用者・ご家族の希望に沿って時間差送迎の対応を実施。
- ヒヤリ・ハット: (24件) 送迎忘れ、転倒、尻もち、賞味期限確認ミス、飛び出し等が目立った。
- 事故 (30件): 転倒、髪引き、送迎忘れ、賞味期限印字ミス、所在不明等が目立った。
- 事故発生 (2件): 車両ドア損傷 (1) 接触事故 (2)

令和元年度【デイセンターなずな】事業報告

令和元年度は、開所から7年目を迎え契約利用者52名でスタートした。5月の祝日開所で2名増え、6月に介護保険移行で1名減、6、7月と続いて2名の方の利用が始まったものの、今年2月に1名急逝された。少人数ながら比較的変動の多い年であったが、大きな事故や病気等とは無縁だったことに感謝している。反面、2月の隣家の焚火による延焼の危険から、事業所全体で避難体制をとることがあった。身に迫る危険を肌で感じ、緊張した実地の訓練となったが、あらゆる場面を想定した訓練の積み重ねが必要と感じた。

職員配置については、年度当初に3名の入職者を迎え、一定の安定した人員配置で支援に臨むことができている。

年度末には新型コロナウイルス感染の脅威が身近に迫り予防と対策に追われる。利用者の方々の特性から、罹患した場合の重篤性を考えると、決して罹患者を出してはならないと思っている。先が見えない状況だが、共存していくようになるとも聞く。皆が本当に安心して暮らせる日が一日も早く来てほしいと願う。

1. 事業内容

生活介護事業

2. 定員及び契約者数（年度末現在）

定員（25名） 契約者数（52名）

3. 支援区分

区分6（49名） 区分5（2名） 区分4（1名）

4. 職員配置（1.7：1以上）

管理者兼サービス管理責任者（常勤1名）、サービス管理副責任者（常勤1名）

生活支援員9名（常勤8名、非常勤1名）、看護師2名（常勤1名、非常勤1名）

作業療法士（非常勤2名）、事務員（非常勤1名）、嘱託医（非常勤1名）

送迎職員（非常勤1名）、家政員（非常勤1名）

5. 支援体制として

【健康管理・医療】

喀痰吸引や注入など、医療職でなくてはならない業務は看護師が担うが、呼吸器や酸素ボンベ等の管理は誰もができるように、個々十分な注意を払いながら動いている。また、日々のバイタルチェックは元より、顔色や仕草、表情等から、些細な変化や不調に気付いてご家庭にお知らせするように努めてはいるが、連絡ミスや連携不足がヒヤリハットであがってもある。

年度途中の看護師交代による医療面の課題については、ご家族に来ていただいて細かな引き継ぎをお願いしたり話し合いを持ったりした。他事業所への研修を依頼したが、新型コロナの影響で延期になったままである。状況が許せば再度お願いしていきたい。

【日中生活・日中活動】

・人数も増え、昼食にも時間を要し昼食が遅くなりがちの方が居られることがこのところの課題となっている。午後の活動時の慌ただしさの中でも、個々の希望に副った活動に取り組んだりストレッチやマッサージを行なう曜日や利用者の方に合わせた動きとなっている。

・1年の内でも夏の暑さや冬の寒さ、また花粉症やインフルエンザ流行もあり、外出や屋外活動も思うように取り組めなかった。前期はイオンの黄色いレシートキャンペーンの店頭活動に参加し、その機会に外食や買い物、イベント参加等を楽しむ

ことができたが、後期はインフルエンザ予防やコロナウイルス予防、曜日の関係もあって外出の機会はほとんど持てなかった。

- ・室内での活動としては、レクリエーションや音楽、スポーツ関連の活動が多めであるが、初めて県庁ホールで展示された作品が創作活動時に皆で描いたものであったり、エコ活動ではペットボトルキャップの収集に多くの方が協力下さっている。また、園芸活動では草花や野菜を育てたが、虫の食事になることも多かった。

【入浴】

- ・月～金の毎日、午前、午後と入浴される方を決めて入浴していただいている。今年度は週に延べ 32 名の方が入浴された。決められた方のキャンセルがあった場合など、可能な限り声掛けし入浴していただいたが、ニーズに十分に答えられているとは言えない。
- ・開所から 7 年が経ち、毎日の使用で特浴設備にも不具合が出て来ている。修理修繕を重ねて大事に使っていききたい。

【送迎】

リフト車 5 台（内リース車 1 台）、スロープ車 2 台（リース車）で、週に延べ 88 名の送迎を行った。車両数、職員数共、ギリギリの状態でも実施することも多いが、事故なども無く安全な送迎を行うことができた。また、運転マナーの学習会を持ち、実際に車椅子で乗車して体感したり、リフト固定の仕方等を学び運転時に役立った。

【土曜開所】

利用希望の方も数名増えた。月 2 回開所で 2 カ月ごとにアンケートでご希望を伺い、1 回平均 16 名の方々にほぼご希望の通りに利用していただくことができた。また今年度は、ゴールデンウィークに 3 日間開所してご希望にお応えした。初の試みであったが、ご本人、ご家族の長期休みにおけるニーズの大きさを感じた。

【地域交流・地域防災・地域貢献】

日・祝日の取り組みが多いのでなかなか参加できないが、可能な限り地域行事や掃除等に参加するようにした。少しずつ地域の一員、町内会会員として見ていただいているように思う。また、なずなまつりやパン販売、移動図書館等、地域の方々にも来ていただけるような機会を持ち、回覧板等でお知らせしており、数名の方に来ていただいている。地域の防災については、会合や研修には参加しているが、防災組織に入っていない為、事業所としての可能な役割を探っていく。

【行事】

年間計画を立て、担当者を中心に実施した。地域の方々やボランティアの皆さんに参加いただいたなずなまつりは 3 年目となり、新成人の方も 3 名の女性をご家族と一緒に祝いすることができた。また、毎年イオンさんに声掛けさせていただいて行うクリスマス会、趣向を凝らしたハロウィンや 1 週間通して行う運動会の他、七夕や餅つき、豆まきといった歳時行事も実施し、時にご家族にも参加いただいたりした。行事自体も盛り上がり、また、共に楽しんでいただくことで利用者の方の喜びも一層大きかったようであった。

【今後に向けて】

まだ新型コロナ禍にある現在、予防策を講じつつの開所を続けている。今後も十分な感染予防と情報収集を行い、職員総体で感染防止と安全な日中生活、楽しみのある日中活動に努めたい。

また状況を見極めつつ、十分な対策を講じながらではあるが、外出への取り組みも再開したい。

基本的にはこれまでも踏襲するが、全ての利用者の方、ご家族により寄り添った支援を心がけたいと思っている。

令和元年度【デイセンターなずな瀬戸】事業報告

今年度は新卒のご利用者 1 名を新たに受入れ、年度途中より更に 1 名のご利用者を受け入れた。また、脳梗塞となり長期のお休みが続いていたご利用者が体調面の回復を得て安定した利用が始まっている。昨年度は大きく体調を崩される方も少なく体調不良等でお休みされた方は減少しているが、定期的にショートステイを利用される方が増加してきている。年間の利用率は 8 割半ばとなっている。まだまだ安定した運営にはなっていないが、この 4 月からは新規に 4 名のご利用者を受け入れ、利用者数の増加が図られ運営の安定に期待をしているところである。土・日・祝日等に福祉の館の中を使用することが難しい状況があり、開所日を増やすことに困難はあるがなんとか収入の増加に繋げて行きたいと考える。

赤磐市への新たな事業移転が計画中である。新たな事業開始に向け、人材の確保、育成等を図る必要がある。場所が変わることによって遠くなる利用者の方の不安もあり、送迎サービスの充実やなずな玉柏との連携も必要になってくると思われる。ショートステイ事業、将来的にはグループホーム事業の開始も予定されており、家族の方の期待が大きい面もある。まずは生活介護事業の新たな事業所作りに向けてスムーズな移行を念頭に進めていきたいと思う。

1. 令和元年度事業の概要（3月31日現在）

定員・契約者数	30名
障害支援区分	区分6（28名） 区分5（1名） 区分3（1名）
利用者年齢	10代（1名）20代（17名）30代（11名）40代（1名）
利用者所在地	岡山市（21名） 赤磐市（3名） 瀬戸内市（4名） 備前市（2名）
職員配置等	管理者・サービス管理責任者（兼務1名） 副管理者（非常勤1名） 生活支援員（常勤8名、非常勤4名） 看護師（常勤1名） 作業療法士（非常勤1名） 事務員（常勤1名） 嘱託医（非常勤1名） 配膳等職員（非常勤2名）

2. 実施事業の内容

①健康管理・医療面

- ・医療面は看護師を中心に臨んでいる。非常勤1名の増員を新年度は予定している。増加していく医療ケアが必要な方への対応として、生活支援員2名が各痰吸引実施研修を受け修了している。
- ・日々のバイタルチェック、様子観察を行い利用者の方の体調管理に努めてきた。
- ・1名の方が体調面より入院となり、胃ろう造設手術をされた。他利用者の方については大きな体調面での変化はなく通所されている。今後も利用者が年齢を重ねていく中で、体調面の観察を密に行い、利用者の方の元気を支援していくことが必要と考える。

②日中生活、日中活動支援

- ・日中活動は主に音楽、レクリエーション、スポーツ、創作、調理、感覚・機能訓練を中心に取り組んできた。また、個々の希望に応じて作業、生産活動も行なっている。
- ・食事介助、排泄介助等日常生活の支援に要する時間が多くなる中、活動支援の時間が減少してきた現状があるが、スタッフの工夫等で利用者の方へ満足してもらえるよう支援を行ってきている。
- ・昨年度は地域交流へ目を向けた活動として、利用者の方の赤い羽根共同募金参加を行ったり、祭り行事等においては近隣の中高生に参加の呼びかけを行ってきた。小グループでの定期的な外食も行った。

③入浴

- ・入浴支援へのニーズは高いが、現状は筒一杯の感がある。年度途中から2名の方

の入浴支援を増やし行っている。

④送迎

- ・車両数や支援者数に限度があるが、可能な限りの送迎を行ってきた。送迎時間の見直し等で新たなニーズにも応えてきたが、希望に対して応えきれない現状が相変わらずある。

⑤行事等

- ・七夕会やクリスマス会等の季節行事を中心に取り組んでいる。毎年夏に行うサマーフェスティバルでは、近隣の中学校、高校にボランティアを要請し、30名弱の参加がみられた。利用者の方にとっても普段とは違った雰囲気や関わりを楽しんでいたように感じた。今年度も引き続き行う予定である。
- ・秋の一日旅行では、レストランでのグルメコース、温泉へのゆったりコースに分かれ実施してきた。

3. ボランティア並びに実習生の受け入れ

①ボランティア

- ・新規ボランティアの方の受け入れはなく、定期的に来ていただいていたボランティアの方も家庭の都合等で難しくなってきたことがあり減少している。行事に参加して下さった方等へのお誘いが必要であると感じている。

②実習生の受け入れ

- ・支援学校の実習生については、4名の方の実習を受け入れ、新年度は卒業を機に4名の方が利用いただいている。(岡山支援学校卒～2名、岡山東支援学校卒～1名、誕生寺支援学校卒～1名)
- ・瀬戸高等支援学校の3年生の現場実習、大学生の介護等体験実習も定期的に受け入れを行っている。

4. 事故、ヒヤリ・ハット及び苦情やご意見等について

- ・事故→21件(市への報告が必要な事故はなし)
 - 内訳 転倒・転落～5件 外傷～7件 怠薬～1件 誤飲～1件
 - 利用者の移動中の接触～1件 利用者同士の接触～6件
- ・ヒヤリ・ハット→19件
 - 内訳 転倒・転落のおそれ～3件 個人情報～1件 薬の出し忘れ～3件
 - 利用者同士の接触のおそれ～1件 誤飲のおそれ～3件
 - 家庭への報告不足～1件 怠薬のおそれ～4件
 - 一人でエレベーターを使用～1件 配膳室コンロでの焦げ付き～1件
 - 入浴機器の操作ミス～1件

5. 今後に向けて

日々の健康や医療情報等支援に欠かせない情報等の共有の徹底、個々のニーズに沿った活動内容や活動時間の確保、入浴や送迎等のニーズへの対応、地域社会との繋がりをしっかり作っていくこと等、新たな赤磐市での事業展開を考えて行く中において私たちに求められているものは多い。誰もが命を輝かせて生きていくそんな社会づくり、事業所作りに向け、新たな年度に臨んでいきたいと思う。

令和元年度【日中一時支援事業】事業報告

3月末現在、契約者は12名である。主に利用されている方は岡山支援学校、岡山東支援学校、瀬戸高等学校、なずな瀬戸生活介護利用者となっている。

利用形態は、学校の長期休み(春、夏、冬)を中心に、学校迎えも含め放課後利用される方が増えてきている。また、生活介護終了後の時間や生活介護利用可能日数を超える利用者の方の受け入れも行っている。昨年度、放課後利用されていた3名の方が今年度より生

活介護事業の利用を開始された。

夏の長期学校休業に際しての一日利用者支援時には、岡山大学特別支援専攻学生のアルバイト生を入れ支援を行った。また、開所時間を18:00まで延長実施してきている。

今後に向けた課題として、放課後の利用者が多い中、夕方の時間帯の支援体制の検討、また、日中一時支援事業の体制を固める中でニーズに則った受け入れに柔軟に対応すること等がある。

赤磐へ移転の際は、日中一時支援事業は廃止し、放課後等デイサービスへと事業を切り替える予定であり、現在、利用されている方への支援をどうするか課題としてある。

令和元年度【瀬戸障がい者相談支援事業所】事業報告

私ども相談支援事業所がお受けしている計画相談件数は、児童含め年度末時点で154件となっており昨年とほぼ同数である。新たな計画相談の依頼もかなりあったが、他事業所へお願いしたり、お断りするケースもあり、ニーズへの対応が十分とは言えない現状である。生活上の様々な相談、障害年金や生活保護受給に向けた支援、各種手帳等の申請、基本相談対応に多くの時間を取られ、報酬に繋がらない支援が多くあり、運営的には中々厳しい一年であった。地域で生活する当事者の皆さんの困り感は多種多様に及び、改めて多くの濃い支援の手を必要と痛感した一年でもあった。

相談にみえられる方は福祉サービスの相談という表向きの話しの奥に、生き辛さや不安、困りごと等経済生活や人間関係、見通せない暮らし等の行き詰まりが感じられる。じっくり、しっかり課題と向き合い、寄り添いと的をえた相談支援が求められていることを痛感する。出会ってよかった、担当頂いてよかったと思われる相談支援専門員に、今後も一層、研鑽と経験を積んでいきたいと思う。

以下、事業方針に沿って令和元年度の実績をまとめ報告とする

1) 令和元年度瀬戸障がい者相談支援事業所の体制

管理者（デイセンターなずな瀬戸副管理者兼務）

相談支援専門員常勤2名（専従、うち1名は週2日赤磐市出向） 事務員1名（兼務）

2) 主な具体的業務

サービス利用計画の作成、モニタリング、その他一般的な暮らしや福祉制度、福祉サービス等に関する相談業務、関連機関や事業所訪問及びサービス調整会議やケア会議への出席、各機関との連絡調整、卒業に向けた移行支援会議等。

地域定着支援が1件。研修会や勉強会への出席も多くあった。相談支援専門員1人は週2日赤磐市に出向し、赤磐市ピーチネット関連業務に携わる。また、それぞれ岡山市の障害支援区分認定調査業務、岡山市障害支援区分認定審査会業務に携わってきた。

3) 地域との関わりにおける具体的な動き

瀬戸つながり隊の一員としての取り組み～平成27年に発足した組織での活動～瀬戸地区社協や公民館、瀬戸町内の障害福祉サービス事業所で構成。原則、月毎の定例会（但し、今年度は新型コロナウイルス関連もあり年度末の集まりはなかった）。第4回瀬戸つながり広場の開催（7月）、瀬戸公民館での繋がりカフェの開催（2月、デイセンターなずなと共に主催し餅つき実施）、9月、江西学区生徒と住民のふれあい祭り参加等。

4) 各種研修会への参加（※10月以降）

- ・東部地域部会計画相談支援勉強会（毎月第3木曜日）
- ・岡山市計画相談に関する勉強会（12月・3月）
- ・赤磐市相談支援事業所連絡会（10月・3月） ・赤磐市くらす部会（12月・2月）
- ・高次脳機能障害のリハビリテーションと地域における支援（10月）
- ・東部地域保健福祉連絡会（12月）
- ・瀬戸つながり隊会議参加（2月以降は新型コロナウイルスの関係で開かれず）

5) 相談利用者状況

福祉事務所別計画相談契約者数（令和2年3月31日現在、総数154人～者119人、児35人）

市別	岡山市							赤磐市	吉備中央	備前市	瀬戸内市
	東区	瀬戸支所	中区	南区	北区	建部御津	健康づくり課				
者	30	15	16	3	6	4	11	28	1	3	2
児童	21	6	5	1	0	0	0	1	0	1	0

※今年度 新規契約 者 10 人 児 3 人 契約終了 者 5 人 児 2 人

相談形態別人数（同上、総数 204 人）※基本相談は相談者数

基本相談	障害児相談	計画相談	地域移行	地域定着
43	35	119	0	1

計画相談（児童含む）障害別の状況（同上） ※難病と高次脳については再掲（3月31日現在）

状況	身体	知的	精神	重心	身・知	身・精	知・精	発達	難病	高次脳
者	13	49	15	24	14	6	1	0	3	3
児童	1	10	0	1	4	0	0	25	0	0

6) 基本相談の人数（令和2年3月現在 43 人、計画相談契約者含む、継続中のもの）

主だった基本相談

- ・精神的な不安からくる相談 ・事業所への不満や人間関係への支援
- ・グループホームの生活になじめず新たな生活の場探し
- ・年金、生活保護、手帳申請等ご本人の生活支援や事務手続きの代行
- ・学校教育と療育事業所とご家族の意見不一致や支援調整等
- ・病院の入退院に伴う仕事探しや生活への支援
- ・相談利用者の地域生活上の懸案事項（ご近所との人間関係や猫騒動等）解決への支援

7) 計画及びモニタリングによる請求件数

内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総数
モニタリング	13	10	7	23	17	13	6	9	9	14	9	6	136
計 画	7	8	12	7	11	8	14	13	14	9	11	20	134

8) 瀬戸における相談支援業務の今後

相談支援専門員が 2 名体制となって 3 年が経過した。計画相談件数に大きな変化はなかった。新規依頼は事業所の受け入れ能力を勘案しその都度判断した。総数としては大きな変動はないが新年度からは地域のニーズに応えるべく相談支援専門員の増員を図っている。赤磐市への出向が現状は週 2 日であるが、今後は赤磐の窓口相談業務を始め、ピーチネット赤磐への関与がより求められるものと思われる。計画相談へのニーズにも応えていきたいと思う。複合課題解決アドバイザー会議への関わりなど果たすべき役割は大きなものを感じる。出会えてよかったとだけ思っていただけの瀬戸相談であり、相談支援専門員でありたいものである。

令和元年度【ワークショップちどり】事業報告

働く事業所として就労を通しての達成感を感じていただけるよう、又、少しでも昨年度より多い工賃支給が出来るよう努力した。昨年度より取り組んでいる工賃向上計画は平均工賃時給 206 円、月額 14,093 円となった。来年度も計画に沿う形で達成を目指したい。また、長年、自主製品のお花付け作業に関わって来られたご利用者 2 名の方が退所され、支援スタッフが自主製品の制作に追われた 1 年となった。後継者の育成が急務と考える。利用状況は個々の様々な事情からお休みされている方が多く、稼働率は 8 割弱となった。安定した運営へ向け、新規利用者の受け入れ等の努力が必要である。

高齢により介護保険と併用される方への支援、又、健康面への配慮に力を必要とした一年であった。今後もご利用者一人ひとりの人権を尊重し、穏やかな気持ちで過ごしていただけるよう、より一層寄添いの支援に努めていきたい。

1、定員及び利用者状況

- ・定員：20 名（変更なし）
- ・契約者数：20 名 4 月～3 月平均利用率 75%

2、職員配置

- ・管理者・サビ管 1 名（兼務） 目標工賃達成指導員 1 名 生活支援員 3 名
- 生活支援員 1 名（パート） 事務員 1 名（兼務）

3、作業及び活動の取組み

〈作業〉

・紙製品

岡山市障害福祉課主催の工賃向上支援事業（ブラッシュアップ事業）に参加し、ショップカード・商品カタログを作成した。常設場所やバザー等で活用し販路拡大に繋げた。商品価格の値上げを新年度から実施する。長年、お花付けをされていた 2 名の利用者の方が辞められた為、お花付け作業は職員対応となった。今後は老舗として紙の良さを伝えていきたいと考えている。

・下請け〈ドックフード等〉

当日の作業がスムーズに行えるよう職員間の連携に努めた。また、急な作業依頼にも対応していることにより、業者からの信頼を得ている。業者と月 1 度ミーティングを行い、作業の進捗状況・課題点を話し合い品質の高い商品生産を目指して進めてきた。また、利用者の方一人ひとりに合った自助具を作成したことで、ご利用者の出来る作業の幅が広がっている。優先調達法登録により定期的に岡山市・岡山市からの受注をいただき収入増となった。

・施設外就労

従来の大和運送（株）岡山物流センターでは、皆さんの作業スピードが増し出来ることが増えたことにより生産量増に繋がった。また、10 月より新たな就労先として島村青果株式会社に出掛けいろいろな工程に挑戦していただき、より自信に繋がり、やりがいを持ち生き生きと作業へ向かわれる姿が増えた。丁寧な作業・納期厳守で進めたことにより取引先との信頼関係も築けている。また、作業場についても、整理整頓し安全性に努め季節に応じた健康管理にも配慮し進めた。

・委託販売

ネイチャーファームのお花を店頭で販売していることで集客に繋がっている。その流れで店内に入っただけの機会が増え、販売しているひだすきの備前焼も見やすいようディスプレイしたことによりリピーターも増え売上げが伸びた。また、10 月から浦安荘ガラスも店内で販売を始めた。バザーでは、乾燥こんにやくの売上げも順調であった。

各作業の令和元年度収入状況について以下の通り（％は予算対比）

・紙製品作業	（収入 896,971 円）	101.5%	
・下請け作業	（収入 1,180,672 円）	105.3%	
・施設外就労	（収入 1,801,010 円）	100.1%	
・委託販売	（収入 472,639 円）	95.3%	
・その他	（収入 40,794 円）	81.6%	合計 4,392,086 円

利用者工賃：平均工賃支給額：14,093 円／月 時間給：206 円（総支給額 3,185,010 円）
工賃向上計画 令和元年度目標は平均月額 15,022 円：時間給 205 円
月額が 929 円減、時間給は 1 円増となった。

〈活動〉

- ・第 3 土曜日の開所日は担当者を中心にご利用者の意見を聞き、季節に合った行き先・ご利用者が多く参加出来る内容を検討し、社会体験の学びの行事となるよう実施した。10 月の泊を伴う社会体験では、利用者ミーティングを活用し、ご利用者主体で行き先・プランを検討し実施した。さりと新聞配布作業、月 1 度の地域清掃時などに地域の方から声を掛けてくださることが増え定着して来た。
クラブ活動（絵手紙）では、カレンダーの挿絵に掲載されることを目標に皆さん真剣に取り組まれている。また、地域の高齢者施設の皆さんとクリスマス会を楽しみ、水害避難訓練を今年度も合同でさせていただいた。新たに地域の方が行事・作業ボランティアとして関わってくださり、地域との繋がりも少しずつ前進出来ているように感じている。

4、苦情解決

- 〈ヒヤリハット〉 2 件：転倒（2）
- 〈苦情・意見〉 1 件：店頭前の駐車において交通の妨げ

5、今後の課題

- ・更なる工賃アップを目指したいと考えている。
- ・平均利用率が 8 割弱である為、契約者数の増員がはかれるよう積極的に見学者を受け入れ、支援学校と連携を図りたいと考える。
- ・地域活動を更に活発に行い、地域に密着した事業所作りに取り組んでいきたい。
- ・土曜日開所日数を増やし、収入増に繋がるよう努める。